

天窓通信

ευαγγελιον

No. 1 4

すべて世は事もなし

時は春、

日は朝(あした)、

朝(あした)は七時、

片岡(かたをか)に露みちて、

揚雲雀(あげひばり)なのりいで、

蝸牛(かたつむり)枝に這(は)ひ、

神、そらに知(し)ろしめす。

すべて世は事も無(な)し。

イギリスの詩人、ロバート・ブラウニング(1812-1889)の詩。1841年作。訳 上田 敏

私の大好きな詩です。この詩を読むと心がとても平安になります。春の朝の静かで、美しい情景が目には浮かびます。音楽で言えばベートーヴェンの交響曲「田園」でしょうか。日本の里山。

私がなぜこの詩に心惹かれるかといえば、平凡な日常のありふれた情景の中に「神の創造の御手」を感じるからです。私が特に心を留めたのは「すべて世は事無し」の一句です。世の中は物情騒然として平和とはほど遠い状態にあるのに、「すべて世は事無し」というのはあまりにも世間知らずで、ナイーブな見方ではないかと批判を浴びそうです。

しかし私は敢えてこの一句を守ります。なぜなら、この一句は「神の現実」だからです。神はこの世を「すべて世は事無し」としてお造りになりました。「事あり」にしたのは人間です。創造主である神は、草花に露を置き、かたつむりを枝に這わせ、ひばりにさえざる声と高く上る翼を与えました。これを戦火で焼き払ったのは人間です。

「すべて世は事無し」この一句は、イエス・キリストがもたらす「平和」に深く関わっています。人間は、どんなに頑張っても、どんなに努力しても、どんなに話し合いを重ねても、この世に平和を作り出すことも、生み出すこともできません。人間は争いしか生みません。

祈りが最強の手段

私がこのように断言する根拠は、人類の歴史です。人間は二千年の間、私の知る限り平和を作ることはできませんでした。軍事力による強権によって作ったことはあります。しかしこれは本当の平和ではありません。究極の平和は、キリストによってもたらされる「神の王国」(「神の国」)です。

「時が満ち、神の国は近くなった。悔い改めて福音を信じなさい。」これはイエスさまが宣教に立たれた時、故郷のガリラヤで発せられた最初の宣言です。「神の国」とは神が主権者として統治される神の王国です。人間が作る人間の王国ではありません。「悔い改めて」とは、人間が神から奪った主権を神に返して、神の前にひれ伏してほんとうの平和を神に求めることです。人間は平和を生み出すことも、作ることもできないことを告白して、一切を神に明け渡して神から平和を頂くのです。

イエスさまが教えてくださった「主の祈り」に、神の国が来ますように、御心が天で成るように、地上(この世)でも成りますように」とあります。この世を造られた創造主である神は、平和を願う神であり、実際に平和をもたらすために、イエス・キリストをこの世にお送りくださいました。「キリストこそ私たちの平和であり、二つのものを一つにし、隔ての壁を打ちこわし、敵意を廃棄された方です…敵意は十字架によって葬り去られました。」エペソ2:14-16。

人工衛星から見た地球は、青く輝く宝石のような惑星です。「奇跡の星」と言われます。人間はこの惑星を、何十回、何百回破壊するほどの核爆弾を保有しています。そしてこの兵器を保有している国が国連安保理の常任理事国として世界に君臨しているのです。国連が人類の平和に何も貢献できないのは当然です。人間はこの何万発の核爆弾をこの地上から除くことはできません。私たち人間にできることは、「神の国」の完成を神に祈ることと、キリストの和解を祈ることです。これが最善の方法です。

日本ルーテル教団

白根ルーテルキリスト教会

牧師 鈴木 素雄

〒950-1214 新潟市南区上下諏訪の木1148-4

TEL025(372)3916

Eメール motoo@rio.odn.ne.jp <http://www.srnc-s.org>